

【沼田市】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

沼田市教育振興基本計画では、ICT環境の整備が教育の質を高めるために重要であるとされている。具体的にはタブレット端末などの1人1台のICT機器を活用し、家庭での予習や復習、学校での協働的な学習を促進することが挙げられ、また、オンライン教育の推進により、場所や時間等にとらわれない柔軟な学習環境が提供され、誰1人取り残さない多様な学びの場が実現される。さらに、プログラミング教育の充実を図り、情報社会に対応できる人材の育成を目指すなど、これらの取組により、児童生徒が主体的に学び、問題解決能力や創造力を育むことが期待できる。

2. GIGA第1期の総括

沼田市教育委員会は、GIGAスクール構想の第1期として、市内小中学校20校において、各児童生徒1人ずつ計3,399台タブレット端末を配備し、高速通信ネットワークや無線LAN環境の整備を行った。この取組により、児童生徒はICTを活用した多様な学習活動が可能となり、主体的・対話的で深い学びが実現された。課題としては、1人1台端末の故障率が高く、修理費用が多くかかった。また、教職員の端末の操作方法等に関わる習熟度に個人差が見られたため、第2期では、堅固性のある端末の導入、児童生徒への管理の徹底、教職員に対する研修の充実を図る。

3. 1人1台端末の利活用方策

沼田市教育委員会は、市内の小中学校における1人1台端末の効果的な利活用を推進している。授業や家庭学習などにおいては、端末を活用して思考を整理して、相互に考えを伝え合うことで理解を深め合えるようにしたり、一人一人の子供に適した学習を行ったりするなど、これまでの教育にICTのよさを加えることで学習活動をより充実させていく。導入しているアプリケーションとしては、協働学習を支援する「ロイロノート・スクール」や、個別学習を促進するデジタルドリル「ドリルパーク」などがある。これらのツールを活用することで、児童生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を目指している。今後も、家庭や地域と連携し、ICTを活用した教育活動の充実を図る。